

大学生協の「就活応援ステーション」 - 就活生の「あったらいいな」がココにある -

石毛昭範*1・田中義信*2・石井伸明*3

Email: cbf52450@pop02.odn.ne.jp (もしくは、ytcoop@gmail.com)

*1: 拓殖大学商学部准教授、生活協同組合東京インターカレッジコープ常務理事

*2: 生活協同組合東京インターカレッジコープ前専務理事、学生キャリアサポート研究会理事長

*3: 拓殖大学4年生、生活協同組合東京インターカレッジコープ理事、学生委員

◎Key Words 就活支援, キャリア形成支援, 「学びと成長プログラム」

1. はじめに

2011年4月の大学設置基準改正により、大学におけるキャリアガイダンス(社会的・職業的自立に関する指導等)が事実上義務化され、各大学においてキャリア教育の体制整備が進んできている。

これに対し、大学生協もかねてから行ってきたキャリア教育支援の動きを強めている。本報告では大学生協の中でも特異な存在である東京インターカレッジコープ(以下東京インカレという)が大学生生活協同組合連合会(以下大学生協連という)、学生キャリアサポート研究会(大学生協職員が中心のカウンセラーのグループ)とともに進めてきたキャリア教育、就活支援の取り組みである「就活応援ステーション」(以下「就ステ」という)を紹介する。

2. 大学生協のキャリア形成支援

2.1 既存の事業と新規のキャリア形成支援事業

大学生協は、かつては学生や教職員に対して書籍・文具・食料品や食堂サービス、あるいは旅行の斡旋などをもっぱら行っていたというイメージが強かったが、近年では学生のキャリア形成支援を熱心に行うようになり、これが大学生協の事業の重要な柱となるに至っている。しかしもともと大学生協は、組合員である学生・教職員に学びの場や機会を提供することを重視していた。これが次第に発展して、キャリア形成支援という事業になったといえる。

2.2 就活生のニーズに応じた支援

東京インカレは、「『学びと成長』プログラム」として1年生からの各種講座・セミナーなどを組み合わせて、段階的にキャリアについての意識づけやコミュニケーション力の向上を図る等を行ってきた。

大学生の生活が充実し、輝く時になるよう、生協と学生と一緒に努力していきたいと考えている。

「充実した大学生活」とは、大学の授業に出席することだけではない。将来の目標を明確にして、その実現に向けてチャレンジし続けること。夢を持って学ぶことで、大学での学びの成果は、何倍にもなる。

多くの内定がもらえる就活生とそうでない就活生の格差が続く就職状況であるが、充実した大学生活を過ごしている学生は、決して悲観することなく、むしろ、就職活動や進学のための勉強を楽しんでさえいる。

その中で、「就ステ」は就活生の応援企画として、大学生協連の主催で学生キャリアサポート研究会と協力して2013年4月から開始した。2015年5月末日まで1,250名以上の就活生の利用となった。

2.3 「就活応援ステーション」の概要

「就ステ」は、就活中の学生に大学生協渋谷会議室スペースを期間限定で開放し、就活支援を行っている。

2013年4月から学生キャリアサポート研究会が主催、東京インカレ共催で始まった「就ステ」は、2013年12月から大学生協連が主催、東京インカレが運営、学生キャリアサポート研究会が協力した。

この企画は、就活生同士が気楽に話せるイベントやワークショップ、セミナーやキャリアカウンセラーによる相談、ホッと一息つけるコーヒーの無料提供等、就活生の「あったらいいな」を実現している。また、その運営は生協職員だけでなく学生もスタッフとして参加している。短期大学のインターンシップを受け入れも行った。

キャリアカウンセラーのカウンセリングやエントリーシートや面接のアドバイスは、就活生への大きな励ましとなった。

就活生からは、「あってよかった」という声や嬉しい内定報告が届いている。

2.4 社会貢献にも繋がる「就ステ」

テレビや新聞等でも取り上げられているこの企画(表1参照)は、①就活生が元気を取り戻す、②軌道修正のヒントを得る、③自分の成功(失敗)体験を皆とシェアする。といった効果や機能を持つ「場」を提供している。

また、就職に不安を「感じている」学生は4人に3人であるが、学生の「学びと成長」、キャリア支援に大きな貢献を果たし、大学生協の強みを活かした社会的貢献となっている。

3. 取り組みの総括

3.1 「就ステ」参加者の声

今日は内定報告をさせていただきたいと思い、連絡しました。

就職活動を通して、本当に多くのことを経験し学びました。

伝えたいことがたくさんあるのですが、そのなかでも一番は、自分がどれだけ多くの人に支えられているかを知ったことです。

家族はもちろん、友人、キャリア、就活生、人事の方、企業の方…

本当に素晴らしい方々に出会うことができました。

就職活動は、苦しかったけれど、とても楽しかったです。

人生で初めて、自分が胸を張ってやりきったと言えるものになりました。

就職活動が始まり、何をしていたのかかわからず、不安でいっぱいだった時、田中さんに相談することができて本当によかったです。

あそこが私の就職活動のスタートでした。

本当にありがとうございました。

3.2 「就ステ」学生スタッフの声

短い間でしたがお世話になりました。就ステという組織に興味を持って始めた学生スタッフですが、専務やCDAの方をはじめとする「就活生のために力になりたい」という想いのつまった温かい場所だったなと振り返って感じます。あのように学生がふらっと立ち寄って相談の出来る場所はなかなかないと思います。今後、就ステはもっともっと活性化してほしいです。社会人としてお世話になった就ステに恩返しするために今後何かお力になれることがあればなと思います。



(図1)

3.3 運営にあたって

「就ステ」は、会議室の机・椅子の配置は主に生協職員、会場の案内や使い方の説明を学生スタッフ、カウンセリングはキャリアカウンセラーが担当した。

運営費は、協賛団体、企業合わせて4組織から42万円の協賛金。費用は、物件費(チラシ印刷代等)約21万円、人件費(スタッフ交通費)約22万円、差し引き1万円のマイナス。なお、生協職員の人件費は含んでいない。

3.4 前進点

「就ステ」への参加した就活生からの感謝と支持が高まり、大学生協の就活応援、キャリア支援に対する新聞やテレビでの広報により、生協へのブランドイメージが高まっていると感じる。

表1 「就ステ」広報

掲載日	メディア名	広報媒体
2013年5月4日	新聞	北海道新聞
2013年5月7日	新聞	朝日新聞
2013年12月2日	テレビ	テレビ東京
2015年2月17日	新聞	読売新聞
2015年5月2日	新聞	共同通信社
2015年5月2日	新聞	北陸中日新聞
2015年5月19日	新聞	東京新聞

3.5 今後の課題

7月からの「就ステ」継続問題があり、広報を控えたことにより、5月からの利用者が激減した。広報の重要性を実感する場面であった。

また、運営にはスタッフやキャリアカウンセラーの確保、毎日の会場設定の苦労、協賛金を含む運営費等は今後の検討課題である。

4. おわりに

就活時期が「後倒し」になったことにより、夏から秋にかけて相談に来る就活生が増えることが予想される。とりわけ、就活をどう進めたら良いのかわからなく、困っている学生が増えることが予想される。

「就ステ」は、一つの生協だけでは運営が難しくなり、キャリアカウンセラーやスタッフ学生(就活終了した学生等)、協賛企業の支援が欠かせない。

大学生協の「就ステ」が、利用者の声を基に、学生支援、就活生支援をさらに進めることを期待したい。

参考文献

- (1) 東京インターカレッジコープ: 「「学びと成長」プログラム」, (2014, 2015).
- (2) 全国大学生協同組合連合会: 「大学生協ハンドブック」, (2014).
- (3) 東京インターカレッジコープ: 「東京インターカレッジコープの「学びと成長プログラム」によるキャリア形成支援活動」, (2011PCカンファレンス)